

化学人材育成プログラムのご紹介

◆経緯

化学人材育成プログラムの創設は、2007年に経済産業省と文部科学省との協賛による「産学人材育成パートナーシップ」が創設されて、人材育成に関わる産学双方の横断的な課題について幅広く議論されたことに始まります。その後、2009年に経済産業省が設置した「化学ビジョン研究会」に議論が引き継がれ、2010年4月に取りまとめられた報告書の中で、化学産業が取組むべき課題の一つとして技術力の強化が挙げられ、その具体的施策として「化学人材育成プログラム」が提言されました。これを受けて、2010年10月に日本化学工業協会に「化学人材育成プログラム」が創設されました。

◆趣旨

化学人材育成プログラムは、日本の化学産業における国際競争力の強化と産業振興の基盤となる若手人材の育成を目的に、化学産業界が求める人材ニーズを大学に発信し、これに応える大学院専攻とその学生を産業界が支援するものです。

【化学産業界が求める高度理系人材像】

- ① 特定分野に関する深い専門性に加え、幅広い基礎的学力を持つ人材
- ② 課題設定能力に優れ、解決のために仮説を立てて実行できる、マネジメント能力を持った人材
- ③ リーダーシップ、コミュニケーション能力に優れた人材
- ④ グローバルな感覚を持った人材

◆化学人材育成プログラム協議会

化学人材育成プログラムに賛同する日本化学工業協会の会員36社が参加して、化学人材育成プログラム協議会を運営しています。

旭化成	旭硝子	A D E K A	宇部興産
花王	カネカ	クラレ	クレハ
三洋化成工業	昭和電工	信越化学工業	J S R
JXTG エネルギー	J N C	住友化学	住友ベークライト
積水化学工業	ダイセル	D I C	デンカ
東亜合成	東ソー	東レ	トクヤマ
日油	日産化学工業	日東電工	日本化薬
日本触媒	日本ゼオン	日立化成	富士フイルム
三井化学	三菱ガス化学	三菱ケミカル	ライオン

(株式会社省略)